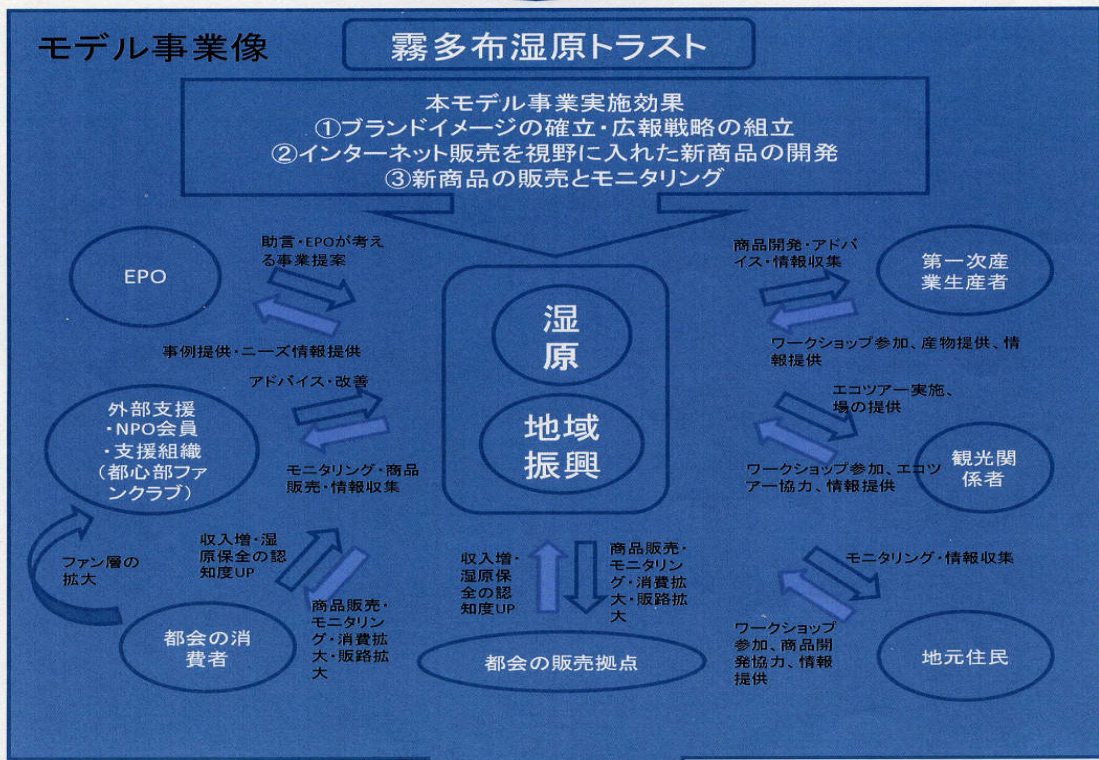
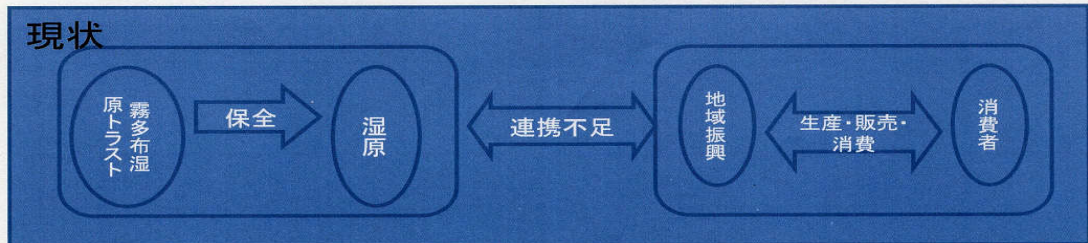


採択事業の事業概要

(特活)霧多布湿原トラスト

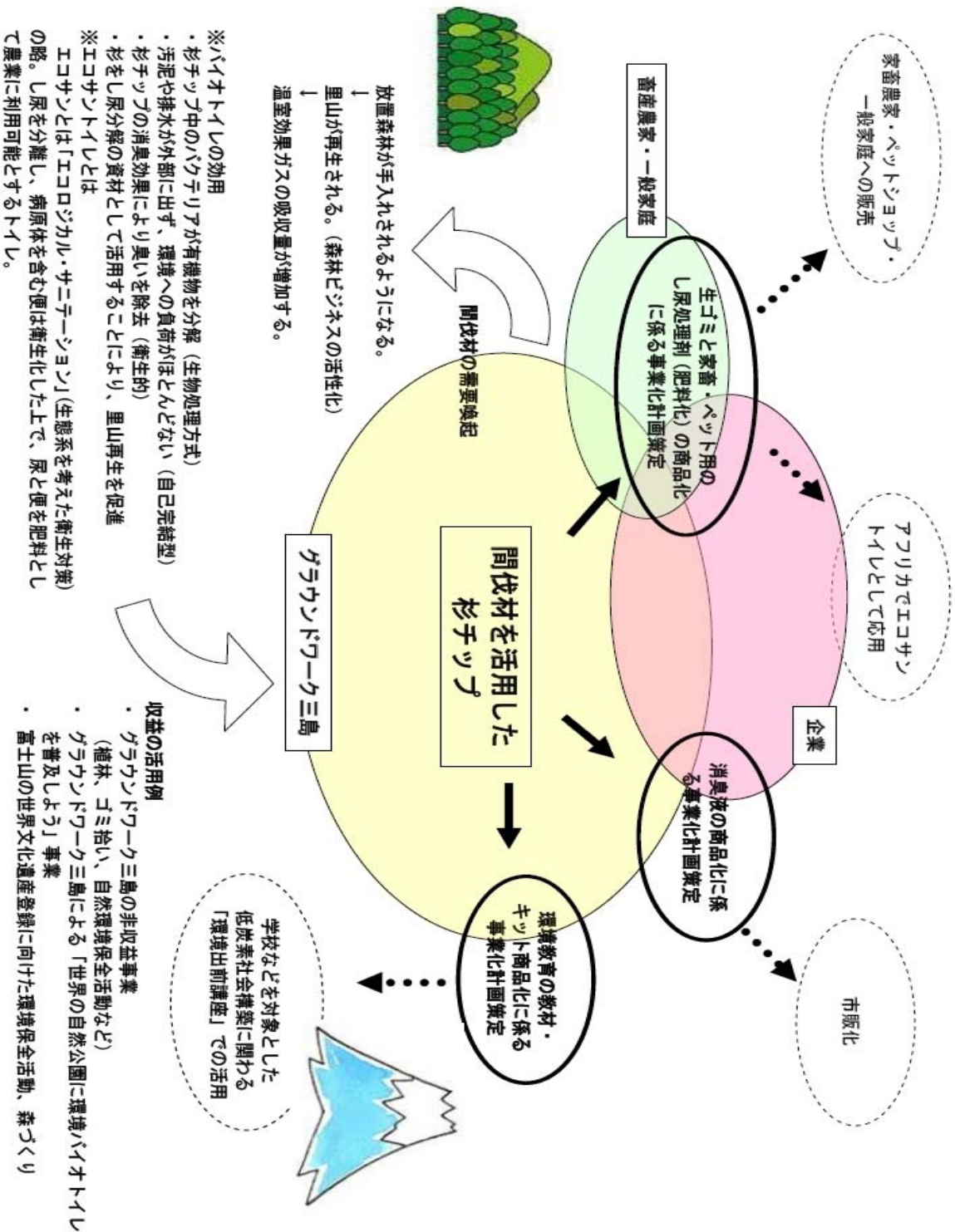
応募書類の書式④関係

霧多布湿原トラストモデル実証事業概念図



～霧多布湿原の永続的な保全～
生物多様性、二酸化炭素の固定、カーボンプールの保全

温室効果ガスの森林吸収量増加に向けた杉チップの活用に関する実証事業の概念図



(特活)グラウンドワーク三島

棚田PRイベントの事業化(案) 概要資料

〔問題提起〕

現在、オーナー制度を利用し、管理されている棚田が管理者の高齢化にともない、継続が不可能となっている。オーナー制度の拡大を目的として、PRイベントを合わせて行うことで事業化を図り、管理者の雇用をおこないたい。また、農村は、交通・病院・通勤通学が不便で、中小規模の農林業だけでは生活が成り立たない上に他の仕事がなく、閉鎖的な人間関係も面倒であるといったマイナスイメージが付きまとう。そのために生産年齢層は都市へ流出するばかりで、田舎は少子・高齢・過疎化が進行し地域活力が衰退するという悪循環から抜け出す方法が模索されている。また、外部からの人間を受け入れる体制ができていないため、外部との交流を図るため、伝統的農村空間の風景や伝統技術・文化とこれらが現在崩壊の危機にあることを広く知ってもらうためのイベントを事業化したい。

〔事業案〕 棚田を利用したライブコンサートとカフェ

棚田の傾斜を利用し、音楽の聴いてもらいイベントと拠点としてのカフェの営業と経営。また、イベントに連動したパッケージツアーを企画するなど多くの人に棚田に実際に来て、感じてもらうイベントとしたい。

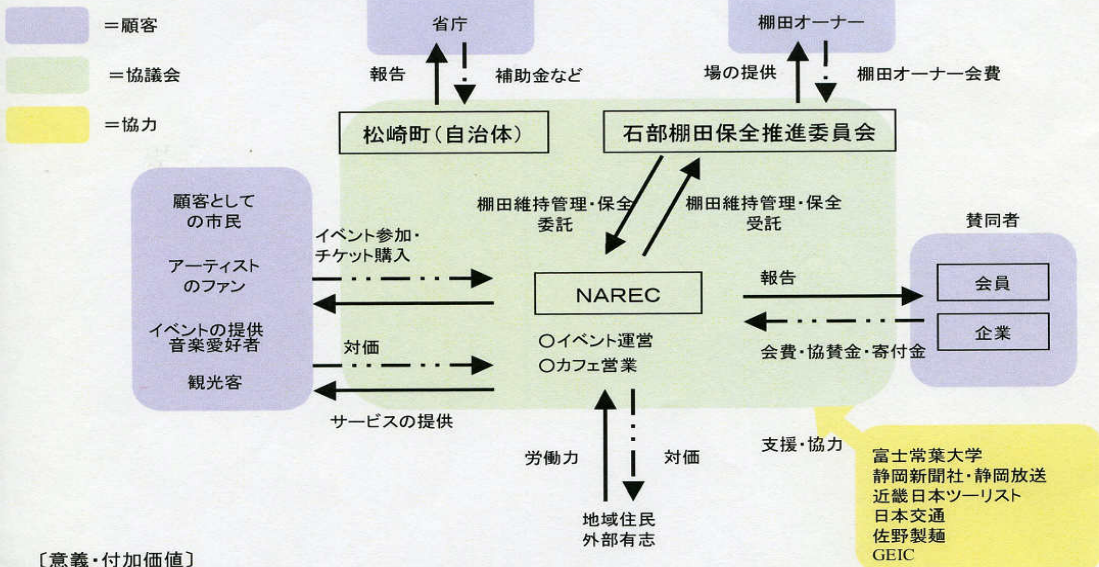


石部棚田。コンサート時、観客は駿河湾を臨みながら観賞する。



カフェ予定地の水車小屋

〔ビジネスフロー図〕

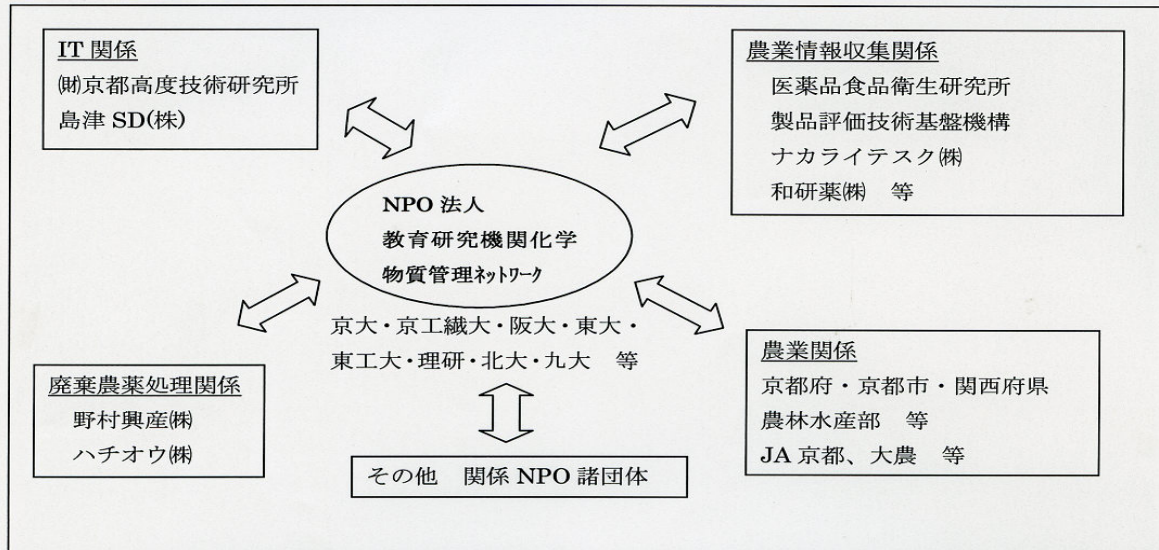


〔意義・付加価値〕

- ・観光資源としての田園利用の開発をすることで、「人」「お金」の流入を促進する。
- ・地域住民に有償スタッフとして事業参加してもらうことで、所得向上による地域経済の底上げを図る。
- ・事業化することにより、地元特産品のPRをサポートすることが可能であり、地域産業の活性化が期待できる。

(特活) 教育研究機関化学物質管理ネットワーク

モデル実証事業 事業主体概要図



事業内容:

- (1) 不用農薬の定期的回収処理システムの創設
- (2) モデル地域(京都)での回収処理要望の不用農薬の現状調査
- (3) モデル地域での不用農薬の回収処理
- (4) 不用農薬の回収処理事業の定常化、定期化
- (5) 他地域への拡張(京都→関西全域→全国へ)

(1)~(3):平成21年度

(4)、(5):平成22年度以降継続

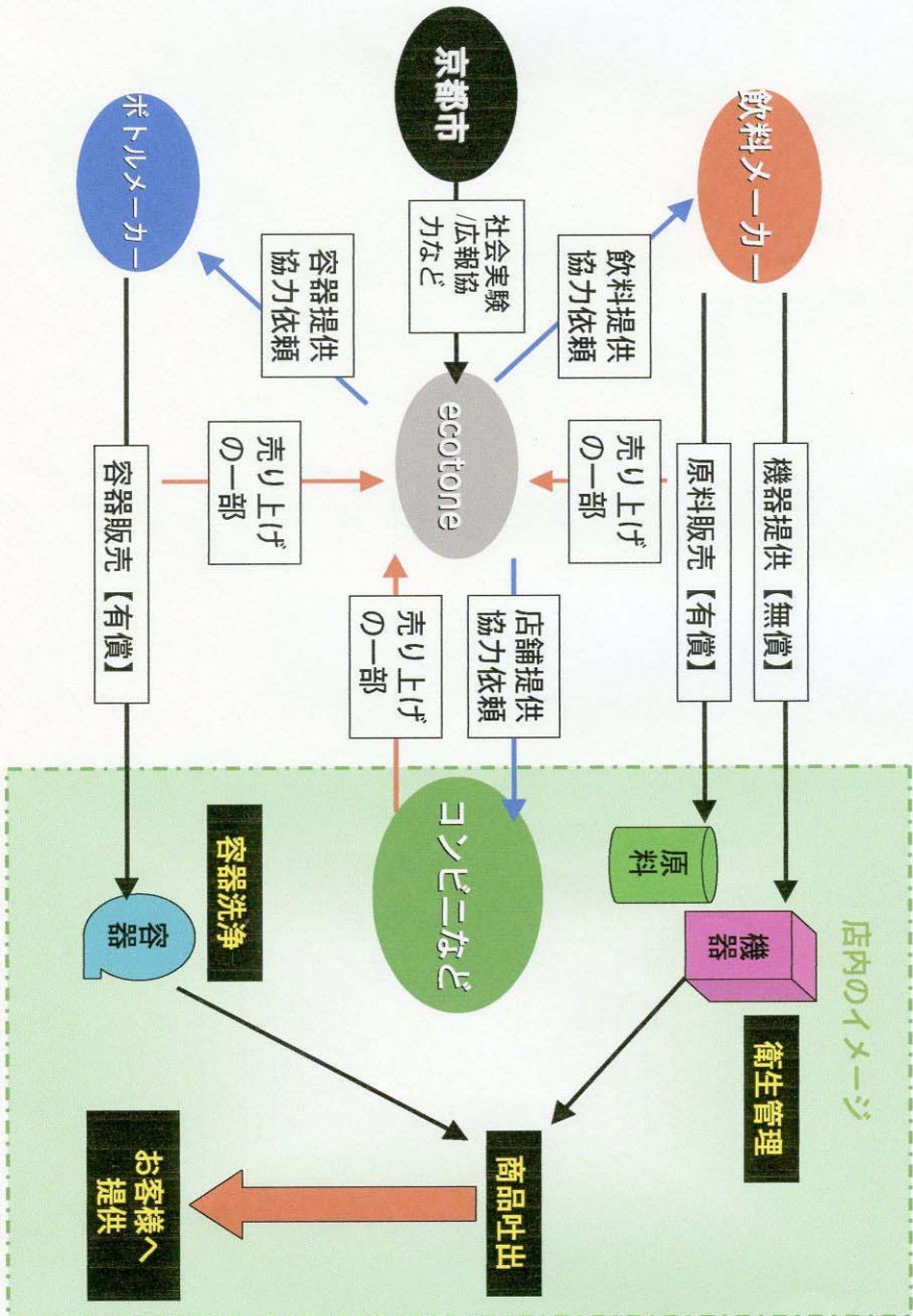
対象地域:

- (1) 当初、京都地域(京都市近郊から京都府域へ)
- (2) 関西地域(大阪府、滋賀県、奈良県、兵庫県、和歌山県)へ拡張
- (3) 全国へ展開

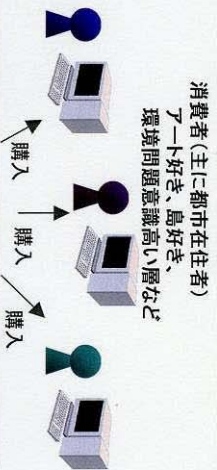
(1):平成21年度

(2)、(3):平成22年度以降継続

■ビジネスモデル概要図 別紙1



NPO法人アーキペラゴ 瀬戸内海の島々においての清掃活動支援事業



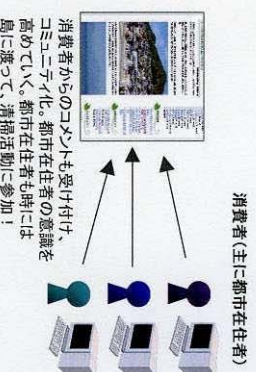
オリジナルステッカー	100円	1,000円	500円
漂着物アクセスラリー	200円	500円	200円
漂着物郵便葉書	200円	500円	300円
ビーチスナー	200円	500円	

通販サイト、イベントで販売

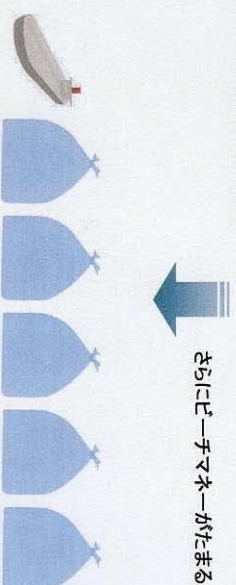
ステッカー
オリジナルステッカー 500円
漂着物アクセスラリー 2,000円
漂着物郵便葉書 1,000円

他に、島の特産品なども

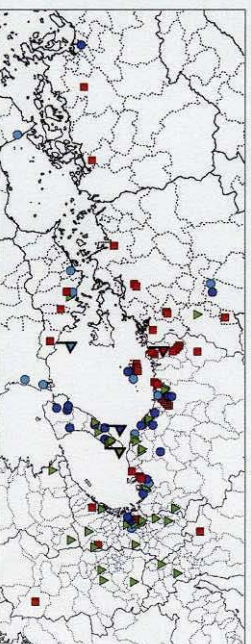
※サイインは専門学校生やアーティストに委託(ゴミ袋もサイイン委託)上記は案で、様々な商品開発。



さらにビーチスナーがたまる



100,000円程度になったところで、島の漁業組合に依頼し、漁のついでに海底のゴミを回収してもらう。自治体の枠を超えて、海底ゴミ問題への取り組みを行う。



大阪湾, 播磨灘4定点におけるデイスナーライターの流出地と漂着地の関係

鹿児島大学藤枝准教授: 提供(2006.7-2008.6)

都会のゴミと島の漂着ゴミが繋がっていることを実感してもらう。講演、ワークショップなど関西で実施。

「REFARM四国 in 上島」プロジェクト概要図

